

令和6年度 留萌市地方創生協議会（議事概要）

【日時】

令和6年10月30日（水） 13:30～15:00

【場所】

留萌市役所（第2委員会室）3階

【出席者】

（委員）

大石委員、上坂委員、野口委員、小原委員、後藤委員、松永委員、野呂委員、米倉委員、田中委員、（欠席）高橋委員

（留萌市）

中西市長、海野地域振興部長、
林政策調整課長、竹内経済観光課長、
山下政策調整係長、佐藤ふるさと納税係長、川俣観光振興係長
千葉政策調整係主任、後藤政策調整係主任、片山観光振興係主事

（受託者）

株式会社ドーコン 技師長

【主な内容】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 留萌市人口ビジョンの検証 [資料1]
 - (2) 第2期留萌市総合戦略（基本目標・KPI）の検証 [資料2]
 - (3) 第3期留萌市総合戦略策定の目的等 [資料3]
 - (4) 企業版ふるさと納税の取組 [資料4]
 - (5) 社会資本整備総合交付金を活用した推進事業の報告 [資料5]
 - (6) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金
（地方創生推進タイプ）実績報告 [資料6]
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

【議事概要】

ー市長あいさつー

第2期総合戦略が令和7年3月31日までとなり、今後の人口ビジョンに沿った形で、第3期総合戦略計画を立てる。地方創生に向け、人口減少と地方の在り方を議論し、市として取り組んでいることや、これから必要になることを含め、皆様のご意見をいただきたい。

ー議事(1)～(6)ー

資料に基づき、事務局より説明

(市長)

市からの説明に対し、ご質問等があれば、お受けしたい。

(委員)

企業版ふるさと納税の充当事業にモンベル等があるが、どのような企業へ周知しているのか。

(ふるさと納税係長)

企業版ふるさと納税は、市の主要施策を中心にふるさと納税課でピックアップし、企業に依頼。ホームページに 50 事業を掲載し、企業側から希望される場合もある。

(委員)

訪日外国人や観光客の入込数は分かるが、経済効果は把握しているか。

(観光振興係長)

現状においては、入込数のみの把握となっている。

—意見交換—

(市長)

これより意見交換に移るが、ただいまの質疑内容を含め、ご発言願いたい。

また、事務局から人口ビジョン、総合戦略の検証について説明をしたが、委員の皆様から新たな視点での検証や、総合戦略で目指す方向性とその実現に向け、どのような政策に取り組んでいけばいいのかご提言いただきたい。例えば、ご意見をいただいた「企業版ふるさと納税」について、今後、力を入れたら良いこと。また、「宿泊者を含めた経済効果」をどうみていくべきか、意見交換したい。「企業版ふるさと納税」の話があったがいかがか。

(委員)

札幌で仕事をされている留萌出身の経営者は多く、中小企業は会社と社長が一体なので、留萌への想いがあればプロジェクトに賛同いただき、安定した寄附にも繋がる。留萌出身の経営者にアプローチし継続的に支援いただくことが大事だと思う。

(ふるさと納税係長)

委託事業者において、旭川市や札幌市における事業所、さらには、留萌市とゆかりのある企業にアプローチを行っている実績はあるが、全てに依頼できているわけではないため、今後、検討を進めたい。

(市長)

留萌信用金庫から情報提供いただくことは難しいか。

(委員)

私どもですけど、留萌高校出身者が結構おり、また、札幌で活躍されている方で利益を上げられ、納税額が多い方もいる。

(市長)

「ふるさと会」の案内については、札幌市の経営者の状況を把握しているのか。

(ふるさと納税係長)

把握している。

(委員)

一定数の事業所数がある中で、全体向けパンフレットにより周知しても、繋がりにくく、ピンポイントで呼びかけなければ、結びつかないものと感じる。

(市長)

ご意見として、頂戴する。また、先程ご質問があった「どういう形で経済効果をつかんでいくのか」について、ご意見があればお願いしたい。

(委員)

観光や宿泊、仕事等で留萌に来られた方が、この地域にどれくらいのお金を使用しているか。ビッグデータで調べられることもできると思うが、調査していただけると、今後、企業誘致をするときに一つの指標になると考えられる。調査についても、留萌商工会議所単独で行うより、留萌観光協会なり、行政において、そのデータを共有する方が望ましいと思うため、可能であればお願いしたい。また、夏場の観光客の入込みと冬場の減り方、そういった全体の構成が見えなければ、ホテル業者の誘致に繋がらないため、ご検討いただきたい。

(市長)

留萌観光協会における実施状況は。

(地域振興部長)

データマーケティングについては、今後、アウトドア観光と稼ぐ観光を進めるにあたって、市としても集約していくべきであり、我々としても今一番不得手である。また、DMOを立ち上げたいと思っているが、専門的マーケティングをとれるような体制を、作っていかねば難しいものと考えており、内閣府に我々の事業効果を示しているが、弱い側面もあることから、留萌観光協会を含め、話し合いを進めている状況。

(市長)

(株)ドーコンさんから何かアドバイスはあるか。

(株)ドーコン)

過去に小樽市でアンケートを実施、消費額や宿泊費の調査実績はある。

(委員)

調査は毎年ではなく各年実施など、現状を知るためにどれくらいの規模の人が留萌を訪れているかを把握し、今後を見据えてお金のことも大事だと思うので、検討いただければと思う。過去には動向調査を実施。ビッグデータを使い、経済産業省から補助金をいただけるが、継続的に実施している地域は少ない。

(委員)

北海道全体では、何らかの数字があったと思う。

(市長)

北海道で依頼をかけても、留萌管内だと数字が小さすぎて、率が出し切れないということがあった。

(委員)

「子育て支援」は、すごく重点であるが、子どもを育てて、生産年齢になるまでに15年かかる。子育て施策を通じて、色々と街を充実させていただいているが、進学等で留萌を離れた子どもたちが留萌に帰ってくる「Uターン」ビジョンも必要。育てて、そのまま留萌を出たきりではなく、そのあと、留萌に帰ってきてもらうための、待遇・優遇、街に帰ってくる子どもたちという指標も必要。

(地域振興部長)

U・Iターンで地元企業に就職する方に対しては、企業が支援したものと同等の金額を支援しており、奨学金事業なので、できれば留萌に帰ってきて欲しい。また、帰ってきた後も自営業か、地元企業に入ると思うが、しっかり定住してもらうことが必要。暮らしの中で新しい魅力が出せれば帰ってくる要素があると思っている。

(委員)

地方創生会議や文科会等、高校生や若い方を参加させたい。また、SNSを活用し、特に「鉄道遺産活用の可能性」は、大好きな若手がいっぱいいると思う。SNSは、マイナス・プラスの面もあるが、どんどん活用すれば、特に「アウトドア」などは、色んな方々の意見が出てくる。留萌の「オロロンライン」は、バイクを乗る人たちにとっては日本一。しまなみ海道を越えて、日本一有名な道で、スタート地点が道の駅。エポックメイキングできるような素晴らしい土地で構想があるので、若手の考え方を、引っ張ってあげることが一つの手だと。また、「D61型蒸気機関車」を素晴らしく保管していただいている。どのように道の駅で活用したら良いかというアイデアがいっぱい出てくるのではないかな。クラウドファンディングや、移送クラウドファンディングで、プレートに名前を残してあげるとか、そういうことをすれば、少ない予算の中でも、考えがどんどん出てくるのではないかな。留萌が好きで、離れた方も違う方向から関われる可能性がある。

(市長)

「留萌を離れても留萌との繋がりを持てるような機会」を増やし、生まれ育った子どもたちが、留萌に戻ってきたいと思えるような、繋がりを持てる取組も必要と考えられる。ご意見として受け止め、施策反映していきたいと思う。

(委員)

デジタル田園都市国家構想交付金の実績報告の中で、事務局の専門人材確保が現状の課題だと記載しているが、一番悩ましいところで難しい。また、鉄道遺産の移設には経費も必要だと思うので、クラウドファンディングをした方がいい。

(市長)

専門人材の確保というのは、DMOにも繋がる話でもある。これは課題であり、進めたいと思っているが、鉄道遺産について今の状況等を含め、情報提供を行いたい。

(観光振興係長)

昨年の調査において、D61 型の鉄道遺産を移設できるのか、ルート案について調査した。実際、現在の場所に設置してから時間が経っており、元々動いてないという静動展示の保管となっているので、一部傷みがあり、実際、車輪が動くか、動かないかによって、運搬方法が変わってくるということで、調査結果をいただいた。現状としては、車輪が動かないということもあり、クレーンによる吊り上げで、見晴公園側から、道の駅エリアに移す方法を検討し、移すことは可能ということで回答を頂いたところ。また、移設ルートについては、大きく2案あるが、一つ目は見晴公園から国道渡り港栄橋を跨ぐルートと、2つ目は早道通り等々を通るルートのほか、5ルートについて検討している。今年度も、移設時の事業費について引き続き調査している。

(市長)

このD61 型を見晴公園に設置した際は、公民館駐車場から線路を引き、設置した。車輪が動かないと線路を引いて戻すことができないので、大型クレーンで吊り上げるしかない。そうなった場合に、どこに大型クレーンを置くかという検討をして設計に入っていく状況。保存状態が良いのは、旧国鉄に勤めた方々が、保存会として管理していただいていたが、高齢化に伴い保存会が存在しない状態。今後の設計で、クラウドファンディングなどを取り入れていくというのも一つの手法と考えている。

(委員)

留萌出身の方から注目を浴びている一例として、現在、市立病院が「心臓カテーテルシステム」の更新に掛かる費用をクラウドファンディングで募っている。札幌で個人会社を運営されている方が「エフエムもえる」に病院長が出演したインタビュー聞き「クラウドファンディングをやりたい」というメッセージが届き、後日確認するとクラウドファンディングをしたコメントも入っていたので、実際に実現したことは考え深い。遠くに居ても留萌に気持ちを寄せる出身者の方がたくさんいると思えば有効と感じた。この取組は、非常に可能性が大きいなと思っているので、引き続き推進いただきたい。

(市長)

留萌出身の方が、「エフエムもえる」を視聴していることを判明できるのか。

(委員)

留萌出身の方がラジオを視聴していることは判明できないが、メッセージをいただけた場合、背景を知ることができる。「ラジオアプリ (レディモ)」ができてからは、本州のリスナーも増え、留萌に来る方、留萌を目指して来る方も増えているところ。実際に交流もあるので、一つのツールと感じている。

(市長)

全国に対する情報提供というのは有効か。

(委員)

狭い範囲かもしれないが、有効だと思う。

(市長)

市立病院の「クラウドファンディング」が目標金額の半分を超えたという報告は、興味を持っていただいている。先般のふるさと会を通じて寄附をいただいた部分もあると思う。

(委員)

モンベルアウトドアヴィレッジの誘致が実現したとして、稼ぐ観光がどのくらいの経済効果と波及効果があるのかデータを取った方が良い。人口増は難しいと思うが、道内振興局別にみた人口移動で、留萌管内だけ3年連続で転入が多くどのような理由か。

(政策調整課長)

基本的には、札幌と旭川に転出が多いが、留萌管内の町村から留萌市へ転入し、差し引けば転出超過になっている。

(委員)

企業版ふるさと納税のマッチングサービスを今年から開始。金融機関の取引先や広い範囲の皆様にお知らせできるよう、各市町村の魅力が分かる冊子を作成し、寄附した方が数多く居るので、道内若しくは東京のお取引先に紹介したい。力を入れ進めていきたいと思うが、どの時期に集中し件数が多くなるのか傾向があれば伺いたい。

(ふるさと納税係長)

毎年の傾向を見ますと、12月末に向け件数が増えてくる部分と3月末、いわゆる年度末・決算期で各企業様が捉え、集中していると見受けられる。

(委員)

留萌市の消費動向で、例えば、滝川市・深川市に行く方が多い傾向。又は、医療品及び衣服・生鮮食品は市内で消費傾向にある等、調査したことはあるのか。

(経済観光課長)

今まで、実施したことがない。

(委員)

連合で、20年程前に組合員を対象とした管内全部調査を行った。消費者動向としては、留萌管内から留萌に来る方が多く、留萌からは旭川市、札幌市へ行く。

何を買うかによって異なるが、滝川市が非常に多かった。一度、動向調査を行い、実態を把握した中で、様々な施策に取り組むことが望ましい。動向調査を行いながら、色々な施策の中に取り込んだ方が良い。結局、地元でどのようにお金を回すのか考えるが、地方にお金が回るといふ状況をしっかり見直した方が良いと思う。

(地域振興部長)

ビッグデータ上、経済循環を見ると、明らかに留萌から外買いが流れている。留萌市内で買い回りするよりも消費が流れることは、個別の品目が分からないが、データ上、結果は出ている。道の駅を整備する際、商圈調査というアンケートを実施している。その時も、留萌から滝川市へ商圈が流れているというデータが出ている

し、札幌市・旭川市にも流れている。留萌市内では、嗜好品の買い回りができず、店の種別もあるが、特に若い世代の自衛隊などの人たちは留萌市外で買い物をする人が多い気がしている。

(市長)

滝川市の郊外店が国道沿いにあることによって、留萌からのアクセスが良い。旭川市の郊外店は永山の方で、時間的な経緯で滝川市に車で行きやすい。

(委員)

留萌には複合施設がなく、滝川市に消費が流れている。留萌に足りないもの、力入れた方が良いものが見えてくると思う。

(委員)

子どもたちが休日に行った場所は「回転寿司とファストフード」の話題がよく出る。

(委員)

ふるさと会は、東京や札幌があるが、他にあるのか。

(市長)

過去には旭川会があった。その他に、関西地方でも一時あったが、基本的には東京、札幌がベース。情報が得られれば、人数が少なくても、交流していけると思う。

(委員)

個人的には関西の「どさんこ会」に呼ばれているが、残念ながら、関西に留萌会が無く関西函館会、旭川会、小樽会、岩見沢会、帯広会がある。関西北海道会もあり、多い時には300人程出席していた「どさんこ会」をピックアップするのも一つ。

(市長)

その縁で、和歌山県橋本市と交流都市連携に繋がった事例もある。

時間が経過してきましたので、以上を持ちまして、第1回の地方創生協議会を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。

第2回に関しても、日程調整のほど、よろしくお願いいたします。